

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうさくら新潟中央教室（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 17日 ～ 2025年 10月 24日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29人	(回答者数) 26人
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日 ～ 2025年 10月 8日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小集団療育プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団の内容をグループ化し、乳幼児に分け、発達状況に合った療育内容を実施した。 ・季節や園行事に合わせ、楽しく参加できる内容を立案している。また、日々の小集団活動のねらいとお子様の支援内容を照らし合わせ、スモールステップできる課題を取り入れている。 ・身体を動かす活動や机上活動（製作、感触遊び等）を一日の活動内にバランス良く取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊具の充実やメンテナンスは常におこなう。 ・机上活動に必要な道具、教材を工夫し、楽しめる遊具を増やす。 ・運動の中で「楽しい」「少しでもできた」「また遊びたい」という満足感と自信を持てる様なプログラムを取り入れる。 ・行動を切り替え易くするため、生活の流れや活動内容を視覚的に提示する。
2	必要に応じた個別療育プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の動かし方の支援が必要な方には、運動の個別支援を行ない、保護者の方へ助言する時間を作っている。 ・就学に向け、年長児対象のグループ療育をご希望の方は実施中。保護者がお子様の様子を客観的に見て頂く機会を作る。夏季も同様、保護者見学の中、認知・運動の個別療育を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子様の状況に合わせ、必要に応じ、個別レッスンをご家族に提案する。 ・日曜日等に個別レッスンを開催（機能訓練士が個別プログラム実施の立案、実施）をする。 ・通常プログラム時間帯のチャレンジタイム中、一人一人の課題を取り入れ、「できた」という満足感を持てる活動提示、支援をおこなう。
3	イベントの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・所内全体の大きなイベント以外、毎月1回イベントを実施した。 ・買い物、調理など社会体験を含め、子どもたちだけのイベントを多く実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員勤務体制を調整し、イベントだけではなく、療育参観を設け、日頃の療育を親子で楽しめるプログラムを実施する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	関係機関・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所、認定こども園、幼稚園の交流は園の活動終了後、送迎車で園から事業所活動の流れとなる為、平日の活動内の交流時間確保は困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区主催のイベント等を情報収集し、地域との関わりが持てるよう、参加する。また、近隣スーパーで買い物体験などをする。 ・新設した放課後等デイサービス（女池教室）へ遊びに行くなど交流を図る。
2	保護者支援・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・お子様に関する悩みや相談はHUGの連絡機能の活用をするが、面談日時設定が足りない。 ・今年度も懇談会を開催。就学前の保護者参加は増えたが、他の年齢層の保護者のご希望が少なかった。 ・懇談会と研修会を同時に出来ると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・忙しい中、見学、相談日を設定して頂く為、保護者交流の懇談会、イベントなどは年間のスケジュールに提示する。 ・懇談会内容の充実を図る。（保護者の方に役立つ情報等） ・見学相談はいつでも見学可能な事を再度保護者の方に周知し、気軽に見学相談できる雰囲気作りをする。
3	非常時等対応の周知	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応などのマニュアル策定を契約の保護者に対し概要説明は行ったが、全世帯周知は不足している。 ・避難場所、状況を通知するためのHUGの活動記録の活用、閲覧は周知不足。通常時より活動記録の閲覧活用をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が事業所へ来所の際、閲覧しやすい場所に避難経路や感染症対策等掲示をする。 ・療育内で、手洗いの仕方を学習し、懇談会、保護者イベント等で説明する機会を設け、活動記録のツール活用を増やす。 ・避難訓練年間予定提示や感染症対応の実施の様子をSNSで伝える。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら新潟中央教室（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 17日 ～ 2025年 10月 24日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数) 28名
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日 ～ 2025年 10月 8日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	社会体験イベントや、保護者の方が事業所やお子様 の様子を見ることができるイベントの設定	・公共交通機関を使い社会性を育んだり、買い物体験などを 通し地域社会との関わりを持つことができるイベント、 親子で楽しめるイベント等を計画し、参加者を募って いる。	・保護者の方にイベントに関して、要望の聞き取り （アンケート）を行う。 ・お子様や保護者の方のニーズに合わせながら、 将来の自立に向けて、様々な体験ができるよう企画 していく。
2	機能訓練士による、個別レッスンの実施	・面談時や、日頃の連絡帳等のやり取りの中でニーズ を聞き取り、保護者の方への提案や日程調整を行って いる。	・積み重ねからステップアップを図れるよう、複数 回実施していく。 ・個別レッスン終了後は振り返りの時間を設け、 機能訓練士から保護者の方に対し、身体の動かし方 について助言を行う。
3	SNSや連絡機能を使用した情報発信	・HUGシステムを活用し、行事予定の公開や個別の 連絡を行っている。 ・療育中の様子や、避難訓練実施の様子など、ブログ やインスタグラムで開示している。	・今後もSNSやシステムを適切に使用しながら、 わかりやすい情報発信を心掛けていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	懇談会や保護者会などの保護者同士の交流	・お子様のみのイベントや親子イベントが中心となり 懇談会など保護者の方のみで話ができる場を設ける ことができなかった。	・保護者の方の意向も確認しながら、懇談会や ペアトレの機会を設け、保護者の方の仕事の都合等 を考慮し、ニーズに応じて実施していく。 ・ご家族が参加できる専門職による研修会などを 実施し、交流の機会を設ける。
2	地域の子ども達との交流	・平日は来所時間にばらつきがあり、他施設との交流 の時間を捻出することが難しかった。 ・イベントや外出時などの特別活動の際に、地域の お子様と一緒に遊ぶ機会を設けることができたが、 頻度は少なかった。	・地域のお祭りやイベントにも参加できる機会を 作るなど、可能な範囲で交流の機会を設けていく。 ・女池教室と連携をはかり、一緒に活動を行うなど 交流する機会をつくる。
3	非常時等の対応についての周知	・相談室に各マニュアルを設置し確認できるように しているが、周知にまでは至っていなかった。 ・訓練実施の様子はSNSを使用し発信しているが、 保護者の方が内容を周知しているかまでは、確認して いなかった。	・マニュアルや計画等、保護者と共有して連携を 図り、周知に繋げる。 ・SNSで情報を発信していることを再度伝え、訓練 実施後は、ブログやインスタグラム等で様子を 伝える。